

今日もどこかで実践する、一人一人の「楽しくてワクワクする」EM活動。 その積み重ねと継続の力。

■豊田市（旧足助町）



矢作川の支流から本流へ水環境浄化への連携

秋には紅葉の名所として知られる足助町（現豊田市）。美しい川が汚れ始めて、下水道整備が急務となりましたが、約60億円という事業費に断念（現在は豊田市となり事業再開）。そこでEMによる家庭雑排水の処理を行うために200万を予算化し実施。実に地域住民の1/3が参加しました。EM活性液はEMもみじ工房にて製造しています。近年にない天然鮎の大量遡上にその効果が現われています。

■岡崎市 早川浄化活動



岡崎市内では最悪の水質となっていた早川。汚れと異臭で住民からの苦情が絶えなかったこの川が、一人の活動で半年後には大量のシラヒガが戻り、住民の目を楽しませる川に変わりました。

■安城市・刈谷市・知立市 吹戸川

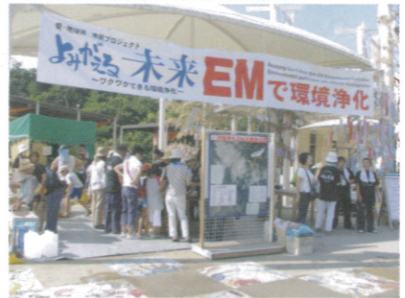


■西尾市 平坂入江の浄化



■碧南市
碧南市「EMを楽しむ会」の源氏水門浄化

■2005年万博瀬戸会場での発表



EMの浄化活動で 日本ワースト5の「油ヶ渚」 を蘇生するために

三河安城ロータリークラブでは5周年を記念して、2004年～2005年の事業計画で安城市と碧南市の境に位置する「油ヶ渚」の浄化に乗り出しました。「油ヶ渚」は日本の湖沼の中でもワースト5に属する有名な池です。

メンバー各自がEMを培養し、1トンの活性液を作成し、月1回年12回の放流を市内30ヶ所で行うことにより、年間360トンのEM活性液を投入しました。

■安城市 油ヶ渚浄化活動



■美浜町



美浜町の川へEMダンゴの投入

■岡崎市 くらまつのと ここが三河市民塾活動の原点



はじめは小さなさざ波のような活動から始まりました。

1台の百倍利器が元小学校校長から、くらまつのとへ贈られ、三河湾浄化市民塾活動が加速しました。

ここで授産施設運営の重要な経済活動となっているのがEM活性液と糖蜜の販売です。

また手軽に利用できることから、近隣各地の市民塾メンバーのEM活動に利用されています。

■幡豆郡一色町



「一色リサイクル花の会」がEMダンゴを作って川を浄化（写真上）
幡豆郡一色中学校の総合学習でプールにEM活性液を投入（写真下）

■蒲郡市 ホテル浄化槽



6年間にわたる大型ホテルの浄化槽へのEM活性液の投入により、浄化槽の排水が浄化源に転換。2000t/週が三河湾内へと流入し、ホテル前の砂浜はもちろん、近隣の浜辺も砂地がきれいになり貝等が増えています。